

# ENAGEED活用事例

---

麗澤瑞浪  
中学校・高等学校

実践の機会を創出して  
探究心を深めるだけでなく  
SDGsについても考える



**ENAGEED**

# 実践の機会を創出して探究心を深めるだけでなく SDGsについても考える

## 麗澤瑞浪中学・高等学校とは

麗澤瑞浪は昭和10年、創立者の廣池千九郎(法学博士)が「道徳科学専攻塾」を開塾したことから始まります。自立、感謝、思いやりの心を育む中高一貫の私立学校です。豊かな自然環境の中、寮生と通学生が切磋琢磨しながらともに過ごし、人としての成長と高い大学進学率の両立を実現しています。『世界で活躍できる日本人を輩出する進学校』として5つの柱(探究学習・英語教育・寮教育・キャリア教育・ICT活用)を軸に教育活動を展開しています。

麗澤瑞浪中学・高等学校は男女共学の中高一貫校で、中学1年生には61名が在籍しています。令和2年度には選抜クラス約60名中、国公立大学に30名合格、1人1人の夢を大切に進路指導を行っています。

### 取り組みの 背景

中学生全体として自分で考え行動した経験が不足しているため、誰かからの指示がないと何をどうすれば良いのかわからない。また、自ら動くことができる生徒についてもすべきことが明確な場合は率先して行動を起こせるが、明確でない場合に、率先して行動を起こすことができないという状況だった。  
**自分で考え行動する力**とともに、それを**伝える力も並行して身に付けさせたい**と考えていた。

### 取り組み

「グループワークをするときの3つのルール」「未来をつくる、3つの力」「3つの力を使うためのキーワード」を生徒たちに明確に伝えた上で、これらを継続できるように中学の全クラスに掲示をした。

#### 実践の場1：「瑞浪市のまちづくりについて」のプレゼンテーション

瑞浪市役所まちづくり推進部の協力を得て、瑞浪市の現状や課題をご講演いただき、そこから市の課題に対する解決方法をSDGsと絡めてグループで考え、瑞浪市役所や地域のまちづくり協議会の方々をお招きしたプレゼンテーションを行った。このイベントの**テーマ設定の際に、情報収集と情報共有を交互に行うことで、自分で物事を考える基盤を作った。**

#### 実践の場2：麗明祭でのポスター発表

瑞浪市のプレゼンテーションから発展させ、3つの力の実用とともに、**相手への伝え方にフォーカスした学習**を行った。麗明祭(本校の文化祭)においても学年ごとに行われる校外学習の事前学習とSDGsを絡めて課題解決のための学習をグループで行い、事前にプレゼンテーションの方法を学んだ上で、本番ではポスター発表を通じて**お客様とディスカッション形式でご説明できるようにという目標**でイベントを実施した。

### 成果

3~4名のグループでこれらの学習を行っているため、生徒たちは主体的に物事に取り組む機会が増えた。**主体的に行動できる力がついてきたかどうかはまだ分からないが、楽しそうにグループでこれらの取り組みができるようになってきたのは大きな成果だと考えている。**これらの取り組みは普段の学校生活においてクラスメイトの意見を丁寧に聞く姿勢やクラスメイトのことを大切に思う気持ちにもつながっていると感じる。寮生が在校生の約半数在籍している本校では寮生が寮生活においても主体性を発揮してより充実した寮生活を送るための一助となることを願っている。

みんなの  
**瑞浪 O・BO・GO!!**

**課題** にぎわいがない! 魅力がない! 人が来ない!  
そこで... **O・BO・GO!!** だ!!

**計画**

① 旅館の夕食で  
ポ・ノ・ポ・ク

② イベントの景品に  
ポ・ノ・ポ・ク

③ ポ・ノ・ポ・クを使用した  
グルメやキャラクターグッズを販売  
温泉を利用 → ポ・ノ・ポ・クPR  
→ 温泉PR  
小さい子からお年寄りまで  
楽しめる!!

**BO**・ポ・ノ・ポ・ク!  
瑞浪市のブランド豚!!

④ 場所ごとに違う  
ポ・ノ・ポ・クを使った  
メニューを提供

⑤ スタンプラリーの  
景品ポ・ノ・ポ・ク

⑥ ゴルフ場で  
ポ・ノ・ポ・クを販売

例えば...  
・レバポレポ・カレー  
・ステーキ  
・串カツ

**O × GO**

**GO** ゴルフ!  
13のゴルフ場!!

① 温泉旅館付きゴルフ場

② そこに陶器を展示、食事に  
ポ・ノ・ポ・クを提供

③ 温泉ゴルフツアー

④ スタンプラリー

ゴルフの疲れを  
温泉で癒す!!

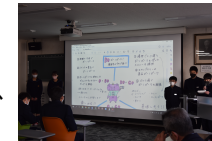
瑞浪市の魅力である、温泉・ポ・ノ・ポ・ク・ゴルフのそれぞれの  
特色を活かして、新たな魅力を作り出すことで、  
瑞浪市に、にぎわいが出ると思う。そして、そこから、  
年齢問わず、多くの人に楽しんでもらいたい。

2年2組6班

## 瑞浪市役所へのプレゼンテーション

地元の瑞浪市に貢献するプロジェクトとして、市役所と連携した発表イベントを開催。

ENAGEEDで学んだ気づく、発案する、実現する、のプロセスを使い、SDGsの観点を含んだ地域の問題解決アイデアを発表した。



生徒たちは「オンライン型探究学習会」で瑞浪市の現状を知り、その後**4つのステップで考える力を身につける学習を行った。**

- ① 経済、環境、社会について検索しながらデータを集める。
- ② 各自課題を見つけたらグループで情報を共有し合う。
- ③ 他者の意見を聞いた上で一度個人ワークに立ち戻って自分の日常と瑞浪市との関連性について調べる。
- ④ グループワークで自分たちの調べてきた内容を共有し、1つのテーマに絞る。

これらのワークを行う際には、教員側でフォーマットを作成し、生徒の考える道筋を示した。

この取り組みによって、**自分で地域問題の解決策を考え、それに対してどのような行動ができるかまで意識して考えることができた。**

2020年10月28日

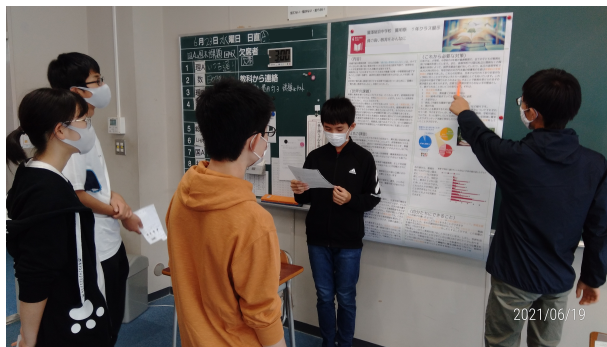
瑞浪市役所からのご協力を得て行われた「オンライン型探究学習会」で瑞浪市の現状や課題を知り、自分たちが生活する「瑞浪市のよりよい未来について」をテーマにその解決策を考えた。

2021年2月24日

事前に各グループ(3~4名)が解決策を発表し、その中で選抜された8チームが全体発表を行った。最優秀チームには「瑞浪市長賞」が授与された。

▲瑞浪市長賞に輝いた「みんなの瑞浪O・BO・GO(オボゴ)」。今ある瑞浪の魅力を挙げ、それらをコラボレーションさせることで地域の活性化に繋げるアイデアを発表した。





1学年発表



2学年発表



3学年発表

## 麗明祭(文化祭)でポスター発表

麗明祭において、学年ごとに行われる校外学習の事前学習とSDGsを絡めて、課題解決のための学習をグループで行った。

麗明祭本番ではポスター発表を行い、お客様とはディスカッション形式でご説明できるようにという目標で実施。

## 伝える力を身につけるための工夫

瑞浪市への発表に関してはまず自分で考え、行動する力を身に付けることにフォーカスしていたため、麗明祭においてはステップアップし、3つの力も使いながら**伝え方にも目を向けてイベントを実施した。**

伝え方を学ぶために、麗明祭実施前にはプレゼンテーションのやりかたムービーを視聴し、そのポイントを押さえて実行するよう指導した。生徒たちは発表を聞きに来たお客様とのディスカッションという実践を通じて、**考えたことを相手に伝える力を身に付けた。**

### ◀各学年のポスター発表の様子。

校外学習で得た学びを材料に、SDGsの問題解決のためのアイデアを堂々と発表した。